

令和2年(2020)11月 入域観光客数概況

38万1,100人
対前年(R1)同月比 -41万8,100人、-52.3%
～11月としては対前年同月比で過去最大の減少～

入域状況

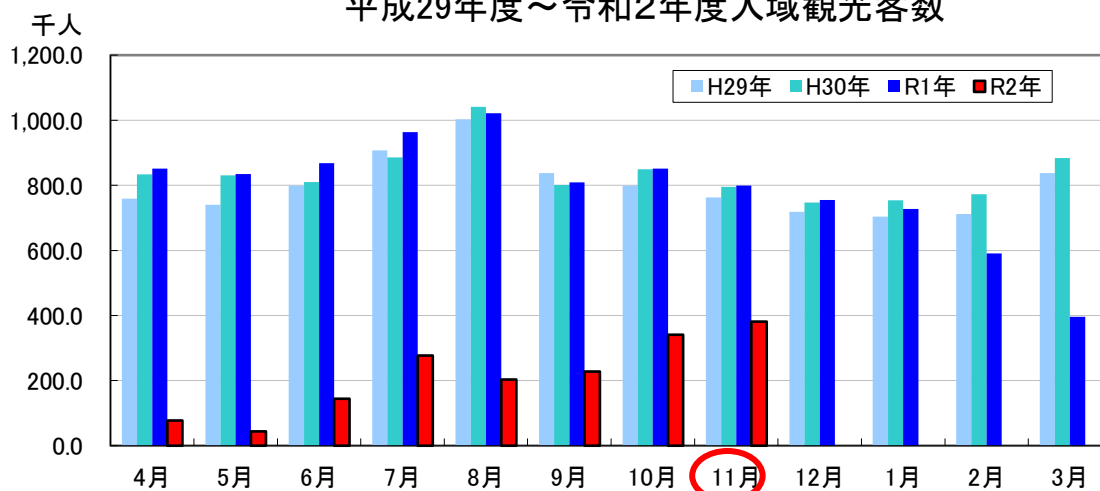
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%
外国客	0 人	199,100 人	△ 199,100人	皆減	0.0%
合計	381,100 人	799,200 人	△ 418,100人	△ 52.3%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%
外国客	0 人	164,900 人	△ 164,900人	皆減	0.0%
合計	381,100 人	765,000 人	△ 383,900人	△ 50.2%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、今年度、国内客が対前年同月比ではじめて6割を超えた。また、県外と先島諸島とを結ぶ路線では前年同月を上回る回復があった。しかし、航空路線における減便や新型コロナウイルス感染症のため旅行を控える動きの影響などから、前年同月を大きく下回った。

12月は、航空路線における減便の継続や全国的な新型コロナウイルス感染拡大に伴う旅行自粛、年末年始のGoToトラベル事業の一時停止の影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

11月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

12月も、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	191,700 人	291,900 人	△ 100,200人	△ 34.3%	50.3%
関西方面	83,000 人	116,900 人	△ 33,900人	△ 29.0%	21.8%
福岡方面	47,600 人	78,400 人	△ 30,800人	△ 39.3%	12.5%
名古屋	33,300 人	50,600 人	△ 17,300人	△ 34.2%	8.7%
その他	25,500 人	62,300 人	△ 36,800人	△ 59.1%	6.7%
合計	381,100 人	600,100 人	△ 219,000人	△ 36.5%	100.0%

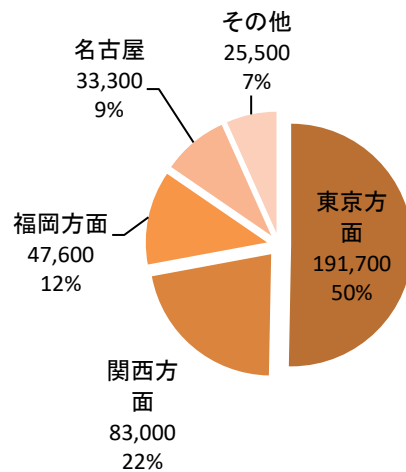
※国内海路客800人を含む(鹿児島800人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	61,900 人	△ 61,900人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	5,500 人	△ 5,500人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	61,700 人	△ 61,700人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	18,400 人	△ 18,400人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,400 人	△ 3,400人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	1,600 人	△ 1,600人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	3,500 人	△ 3,500人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	43,100 人	△ 43,100人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	199,100 人	△ 199,100人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、前年同月比34.3%減の191,700人であった。先島路線で対前年同月を超える回復があったものの、羽田－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、成田－那覇路線で減便規模の拡大や、東京都居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行の自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

11月は、前年同月比29.0%減の83,000人で、主要方面別で最も減少率が低かった。先島路線で対前年同月を超える回復があったものの、関西－那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、関西－那覇路線での減便継続や、大阪市居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行の自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

11月は、前年同月比39.3%減の47,600人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線などで回復基調を維持したものの、福岡－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、福岡－那覇路線で減便が継続されていることなどから、厳しい状況が予想される。

名古屋

11月は、前年同月比34.2%減の33,300人であった。特に先島路線で回復したものの、中部－那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。
12月は、中部－那覇路線で減便が継続されていることや、名古屋市居住者に対して、GoToトラベル事業を利用した旅行自粛が呼びかけられている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

11月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月61,900人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

11月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月5,500人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休や観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

11月は、中国(上海、杭州、南京、青島)－那覇の4路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月61,700人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

11月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月18,400人から皆減となった。
12月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。